

2022年5月29日 午前礼拝
「アレオパゴスでのパウロのメッセージ」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 17:21~31

- 21 アテネ人も、そこに住む外国人もみな、何か耳新しいことを話したり、聞いたりすることだけで、日を過ごしていた。
- 22 そこでパウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。
- 23 私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇があるを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。
- 24 この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。
- 25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちの息と万物とをお与えになった方だからです。
- 26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とお定めになりました。
- 27 これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。
- 28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である』と言ったとおりです。
- 29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。
- 30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。
- 31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの実証をすべての人にお与えになったのです。」

【説教要約】

使徒 17:16, さて、アテネでふたりを待っていたパウロは、町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを感じた。

使徒 17:17, そこでパウロは、会堂ではユダヤ人や神を敬う人たちと論じ、広場では毎日そこに居合わせた人たちと論じた。

使徒 17:18, エピクロス派とストア派の哲学者たちも幾人かいて、パウロと論じ合っていたが、その中のある者たちは、「このおしゃべりは、何を言うつもりなのか。」と言い、ほかの者たちは、「彼は外国の神々を伝えているらしい。」と言った。パウロがイエスと復活とを宣べ伝えたからである。

エピクロス派：エピクロスという哲学者の信奉者たちのこと。人生の目的は快樂であり、知識の追求ではないと教えた。

ストア派は汎神論者であった。彼らは「知恵は強い感情にとらわれないことにあり、喜びや悲しみに影響されず、理性に喜んで従う」事を信じていた。

使徒 17:19, そこで彼らは、パウロをアレオパゴスに連れて行ってこう言った。「あなたの語っているその新しい教えがどんなものであるか、知らせていただけませんか。」

アレオパゴスは最高裁判所のような司法機関で、軍神マースの丘にあった。

使徒 17:20, 私たちにとっては珍しいことを聞かせてくださるので、それがいったいどんなものか、私たちは知りたいのです。」

使徒 17:21, アテネ人も、そこに住む外国人もみな、何か耳新しいことを話したり、聞いたりすることだけで、日を過ごしていた。

使徒 17:22, そこでパウロは、アレオパゴスの真中に立って言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。

使徒 17:23, 私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に。』と刻まれた祭壇があるを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。

パウロのメッセージの組み立て方

(1)共通項：私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に。』と刻まれた祭壇があるを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。

パウロとアテネの人たちとの共通項は偶像なのです。私と和歌山の姉との共通公は偶像です。話をする場合に共通項がないと話がかみ合わないのです。

使徒 17:24, この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。

(2)天地創造の神様がおられることを伝えなければなりません。私は「天地創造の神がおられる証拠」というトラクトを作りました。

使徒 17:25, また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。

(3)「神様が人間を造られた証拠」のトラクトを作りました。

使徒 17:26, 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。

(4)一人の人 = アダムとエバから始まって全人類を造られました。

使徒 17:27, これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。

神様を探り求めるなら、神様を見出すこともある、と書かれています。

ヨハネ 4:24, 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

神様は霊的な存在なので目で見ることにはできません。しかし御言葉に従えば働いてくださいます。

(1)創世記 22:1, これらの出来事後、神はアブラハムを試練に合わせられた。神は彼に、「アブラハムよ。」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにおります。」と答えた。

創世記 22:2, 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

とても難しい命令ですがアブラハムは従いました。すると神様が働いてくださいました。

創世記 22:13, アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角をやぶに引っかけている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。

神様が働いて「角を藪に引っかけている一頭のおやぎを与えてくださった。」

(2)出エジプト記 14:10, パロは近づいていた。それで、イスラエル人が目を上げて見ると、なんと、エジプト人が彼らのあとに迫っているではないか。イスラエル人は非常に恐れて、主に向かって叫んだ。

出エジプト記 14:11, そしてモーセに言った。「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということをおぼれにしてくれたのです。

出エジプト記 14:12, 私たちがエジプトであなたに言ったことは、こうではありませんでしたか。『私たちのことはかまわないで、私たちをエジプトに仕えさせてください。』事実、エジプトに仕えるほうがこの荒野で死ぬよりも私たちには良かったのです。』

このような状況の中で

出エジプト記 14:16, あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に差し伸ばし、海を分けて、イスラエル人が海の真中のかわいた地を進み行くようにせよ。

出エジプト記 14:17, 見よ。わたしはエジプト人の心をかたくなにする。彼らからのあとからはいつて来ると、わたしはパロとその全軍勢、戦車と騎兵を通して、わたしの栄光を現わそう。

出エジプト記 14:18, パロとその戦車とその騎兵を通して、わたしが栄光を現わすとき、エジプトはわたしが主であることを知るのだ。

このような状況の中でモーセは神様の御言葉に従いました。すると神様が働いてくださいました。

出エジプト記 14:21, そのとき、モーセが手を海の上に差し伸ばすと、主は一晩中強い東風で海を退かせ、海を陸地とされた。それで水は分かれた。

出エジプト記 14:22, そこで、イスラエル人は海の真中のかわいた地を、進んで行った。水は彼らのために右と左で壁となった。

出エジプト記 14:23, エジプト人は追いかけて来て、パロの馬も戦車も騎兵も、みな彼らのあとから海の中にはいつて行った。

出エジプト記 14:24, 朝の見張りのころ、主は火と雲の柱のうちからエジプトの陣営を見おろし、エジプトの陣営をかき乱された。

出エジプト記 14:25, その戦車の車輪をはずして、進むのを困難にされた。それでエジプト人は言った。「イスラエル人の前から逃げよう。主が彼らのために、エジプトと戦っておられるのだから。」

出エジプト記 14:26, このとき主はモーセに仰せられた。「あなたの手を海の上に差し伸べ、水がエジプト人と、その戦車、その騎兵の上に返るようにせよ。」

出エジプト記 14:27, モーセが手を海の上に差し伸べたとき、夜明け前に、海がもとの状態に戻った。エジプト人は水が迫って来るので逃げたが、主はエジプト人を海の真中に投げ込まれた。

出エジプト記 14:28, 水はもとに戻り、あとを追って海にはいつたパロの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残された者はひとりもいなかった。

出エジプト記 14:29, イスラエル人は海の真中のかわいた地を歩き、水は彼らのために、右と左で壁となったのである。

出エジプト記 14:30, こうして、主はその日イスラエルをエジプトの手から救われた。イスラエルは海辺に死んでいるエジプト人を見た。

使徒 17:28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である。』と言ったとおりです。

使徒 17:29, そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。

神様の御言葉に従うと神様が働いてくださいます。

使徒 17:30, 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。

モーセが御言葉に従うと神様が働いてくださいました。

(3)民数記 13:1, 主はモーセに告げて仰せられた。

民数記 13:2, 「人々を遣わして、わたしがイスラエル人に与えようとしているカナンの地を探らせよ。父祖の部族ごとにひとりずつ、みな、その族長を遣わさなければならない。」

民数記 13:25, 四十日がたって、彼らはその地の偵察から帰って来た。

民数記 13:26, そして、ただちにパランの荒野のカデシュにいるモーセとアロンおよびイスラエルの全会衆のところに行き、ふたりと全会衆に報告をして、彼らにその地のくだものを見せた。

民数記 13:27, 彼らはモーセに告げて言った。「私たちは、あなたがお遣わしになった地に行きました。そこにはまことに乳と蜜が流れています。そしてこれがそのくだものです。

民数記 13:28, しかし、その地に住む民は力強く、その町々は城壁を持ち、非常に大きく、そのうえ、私たちはそこでアナクの子孫を見ました。

民数記 13:29, ネゲブの地方にはアマレク人が住み、山地にはヘテ人、エブス人、エモリ人が住んでおり、海岸とヨルダンの川岸にはカナン人が住んでいます。」

民数記 13:30, そのとき、カレブがモーセの前で、民を静めて言った。「私たちはぜひとも、上って行って、そこを占領しよう。必ずそれができるから。」

民数記 13:31, しかし、彼といっしょに上って行った者たちは言った。「私たちはあの民のところ攻め上れない。あの民は私たちより強いから。」

民数記 13:32, 彼らは探って来た地について、イスラエル人に悪く言いふらして言った。「私たちが行き巡って探った地は、その住民を食い尽くす地だ。私たちがそこで見た民はみな、背の高い者たちだ。

民数記 13:33, そこで、私たちはネフィリム人、ネフィリム人のアナク人を見た。私たちに自分がいなごのように見えたし、彼らにもそう見えたことだろう。」

民数記 14:6, すると、その地を探って来た者のうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブとは自分たちの着物を引き裂いて、

民数記 14:7, イスラエル人の全会衆に向かって次のように言った。「私たちが巡り歩いて探った地は、すばらしく良い地だった。

民数記 14:8, もし、私たちが主の御心にかなえば、私たちをあの地に導き入れ、それを私たちに下さるだろう。あの地には、乳と蜜とが流れている。

民数記 14:9, ただ、主にそむいてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちのえじきとなるからだ。彼らの守りは、彼らから取り去られている。しかし主が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れてはならない。」

民数記 14:10, しかし全会衆は、彼らを石で打ち殺そうと言い出した。そのとき、主の栄光が会見の天幕からすべてのイスラエル人に現われた。

民数記 14:11, 主はモーセに仰せられた。「この民はいつまでわたしを侮るのか。わたしがこの民の間で行なったすべてのしるしにもかかわらず、いつまでわたしを信じないのか。」

イスラエルの選ばれた 10 人はネフィレム人のアナク人を恐れ、「ネフィレム人のアナク人は巨人のようで、イスラエル人はいなごのようだ」と報告したので、民はネフィレム人のアナク人を恐れて「エジプトに帰ろう」と言い出したのです。ヨシュアとカレブは「ネフィレム人のアナク人を恐れてはならない」と言ったら、イスラエル人はヨシュアとカレブを石で打ち殺そうと言い出したのです。

そのとき神様は神様よりもネフィレム人とアナク人を恐れているイスラエル人に向かって、神様は「わたしを侮るのか」としかられました、そして 20 歳以上の男子 60 万人を荒野で 40 年間放浪させ殺されました。御言葉に従わないということは恐ろしいことです。

(4)ヨシュア記 3:7, 主はヨシュアに仰せられた。「きょうから、わたしはイスラエル全体の見ている前で、あなたを大いなる者としよう。それは、わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを、彼らが知るためである。

ヨシュア記 3:8, あなたは契約の箱をかつぐ祭司たちに命じてこう言え。『ヨルダン川の水ぎわに来たとき、あなたがたはヨルダン川の中に立たなければならない。』

ヨシュア自身ではなく、祭司に命じて祭司が神様の御言葉に従わなければならない。

ヨシュア記 3:13, 全地の主である主の箱をかつぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまると、ヨルダン川の水は、上から流れ下って来る水がせきとめられ、せきをなしで立つようになる。」

ヨシュアの命令を祭司は従わなければならない。祭司がヨシュアの命令に従ったとき、神様が働いてくださった。

(5)ヨシュア記 5:13, さて、ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行って、言った。「あなたは、私たちの見方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」

ヨシュア記 5:14, すると彼は言った。「いや、わたしは主の軍の将として、今、来たのだ。」そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」

ヨシュア記 5:15, すると、主の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」そこで、ヨシュアはそのようにした。

ヨシュア記 6:1, エリコは、イスラエル人の前に、城門を堅く閉ざして、だれひとり出入りする者がなかった。

ヨシュア記 6:2, 主はヨシュアに仰せられた。「見よ。わたしはエリコとその王、および勇士たちを、あなたの手に渡した。

ヨシュア記 6:3, あなたがた戦士はすべて、町のまわりを回れ。町の周囲を一度回り、六日、そのようにせよ。

ヨシュア記 6:4, 七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って、箱の前を歩き、七日目には、七度町を回り、祭司たちは角笛を吹き鳴らさなければならない。

ヨシュア記 6:5, 祭司たちが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、あなたがたがその角笛の音を聞いたなら、民はみな、大声でときの声をあげなければならない。町の城壁がくずれ落ちたなら、民はおのおのまっすぐ上って行かななければならない。」

ヨシュア記 6:6, そこで、ヌンの子ヨシュアは祭司たちを呼び寄せ、彼らに言った。「契約の箱をかつぎなさい。七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って、主の箱の前を行かななければならない。」

ヨシュア記 6:7, ついで、彼は民に言った。「進んで行き、あの町のまわりを回りなさい。武装した者たちは、主の箱の前を進みなさい。」

神様はヨシュアに命令された。ヨシュアは民に命令した。民はヨシュアの命令に従った。民がみ言葉に従ったとき、神様が働いてくださった。

ヨシュア記 6:8, ヨシュアが民に言ったとき、七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って主の前を進み、角笛を吹き鳴らした。主の契約の箱は、そのうしろを進んだ。

ヨシュア記 6:9, 武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの先を歩き、しんがりは箱のうしろを進んだ。彼らは進みながら、角笛を吹き鳴らした。

ヨシュア記 6:10, ヨシュアは民に命じて言った。「私がときの声をあげよと言って、あなたがたに叫ばせる日まで、あなたがたは叫んではいけない。あなたがたの声を聞かせてはいけない。また口からことばを出してはいけない。」

イスラエルの民は 200 万人います、女性が 100 万人いるとして、女性はおしゃべりです。女性が黙って行進することはとても難しいことです、しかし御言葉に従いました。御言葉に従うと神様は働いてくださいます。

ヨシュア記 6:11, こうして、彼は主の箱を、一度だけ町のまわりを回らせた。彼らは宿営に帰り、宿営の中で夜を過ごした。

ヨシュア記 6:12, 翌朝、ヨシュアは早く起き、祭司たちは主の箱をかついだ。

ヨシュア記 6:13, 七人の祭司たちが七つの雄羊の角笛を持って、主の箱の前を歩き、角笛を吹き鳴らした。武装した者たちは彼らの先頭に立って行き、しんがりは主の箱のうしろを進んだ。彼らは進みながら角笛を吹き鳴らした。

ヨシュア記 6:14, 彼らはその次の日にも、町を一度回って宿営に帰り、六日、そのようにした。

ヨシュア記 6:15, 七日目になると、朝早く夜が明けかかるころ、彼らは同じしかたで町を七度回った。この日だけは七度町を回った。

ヨシュア記 6:16, その七度目に祭司たちが角笛を吹いたとき、ヨシュアは民に言った。「ときの声をあげなさい。主がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ。」

ヨシュア記 6:17, この町と町の中のすべてのものを、主のために聖絶しなさい。ただし遊女ラハブと、その家に共にいる者たちは、すべて生かしておかなければならない。あの女は私たちの送った使者たちをかくまってくれたからだ。

ヨシュア記 6:18, ただ、あなたがたは、聖絶のものに手を出すな。聖絶のものにしないため、聖絶のものを取って、イスラエルの宿営を聖絶のものにし、これにわざわいをもたらさないためである。

ヨシュア記 6:19, ただし、銀、金、および青銅の器、鉄の器はすべて、主のために聖別されたものだから、主の宝物倉に持ち込まなければならない。」

ヨシュア記 6:20, そこで、民はときの声をあげ、祭司たちは角笛を吹き鳴らした。民が角笛の音を聞いて、大声でときの声をあげるや、城壁がくずれ落ちた。そこで民はひとり残らず、まっすぐ町へ上って行き、その町を攻め取った。

御言葉に従えば神様が働いてくださいます。

マタイ 22:39, 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

結婚している人にとってが一番の隣人は夫婦です、性格の違う人を愛することは難しいことです。しかし御言葉に従うと神様が働いてくださいます。

使徒 17:31, なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの実証をすべての人にお与えになったのです。」

ローマ 1:4, 聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。

父なる神様がイエス・キリストを死人の中から三日目に蘇らせた事によりイエス・キリストを神の御子とされました。復活が神の御子である証拠です。復活がすべての力ギなのです。

お立てになった一人の人 = イエス・キリスト
世界を裁くため、日を決めておられる。 = 地上再臨の日

黙示録 19:11, また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。

黙示録 19:12, その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。

黙示録 19:13, その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。

黙示録 19:14, 天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。

黙示録 19:15, この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、

鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。

黙示録 19:16, その着物にも、ももにも、「王の王、主の主。」という名が書かれていた。

白い馬に乗った方 = イエス・キリスト

黙示録 19:19, また私は、獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍勢と戦いを交えるのを見た。

黙示録 19:20, すると、獣は捕えられた。また、獣の前でしるしを行ない、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕えられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。

馬に乗った方 = イエス・キリスト イエス・キリストはおひとりで反キリストと地上の王たちの軍勢と戦われたのです。イエスキリストは反キリストと偽預言者を捕らえ硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。全世界をあれほど悩ませた反キリストと偽預言者をまるで犬の子を捕まえるように捕まえて、火の池に投げ込まれたのです。

全てのカギはイエス・キリストが死人の中から三日目に蘇がえったことです。イエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたことを宣べ伝えれば神様が働いてくださいます。ですからパウロはイエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたことを宣べ伝えているのです。イエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたことを宣べ伝えましょう。